

バングラデシュのイスラーム教育：ブラフモンバリ ア県コジバ郡ソイダバッド村の事例

日下部，達哉
九州大学大学院人間環境学府発達・社会システム専攻：博士課程3年

<https://doi.org/10.15017/7364830>

出版情報：国際教育文化研究. 3, pp.77-88, 2003-06-30. Comparative and International Education,
Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



バングラデシュのイスラーム教育 —ブラフモンバリア県コジバ郡ソイダバッド村の事例—

日下部 達哉

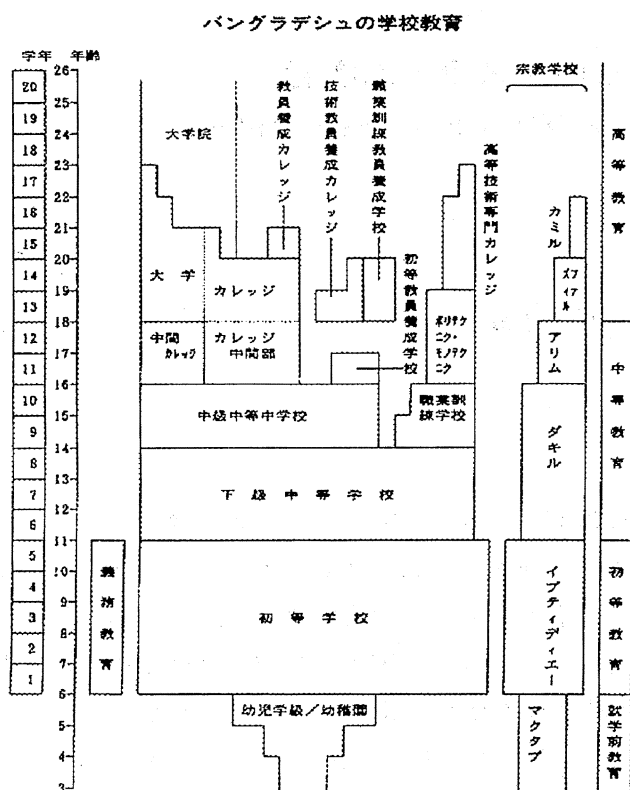
はじめに

本研究の目的はバングラデシュのある農村に存在するイスラーム宗教学校マドラサ (*madrasah*) で行われているイスラーム教育を詳述することにある。まず、バングラデシュにおけるマドラサ教育の概要、そして本研究の意義も含めて拙稿を参照し¹⁾ 説明しておこう。

バングラデシュのイスラーム宗教学校であるマドラサは、国の学校教育制度とは一線を画しており、別の系統が存在する (図1)。また運営も教育省ではなく宗教省が管轄しており、イブティディエー (*ibtidaee*) という小学校レベルからカミル (*kamil*) という大学院レベルまで整備されている。地域によってはモクトブ (*maktab*) という幼稚園レベルのコーランを暗記するための寺子屋的教室もマドラサ (あるいはフルカニアマドラサ) と呼ぶ場合がある。全国的にマドラサは増加傾向にあり 1970 年に 1000 校程度だったものが 2000 年には 7000 校を超えるに至っている²⁾。急激な増加は 1990 年代に入ってからのもので、こうした傾向があるのは国内のマドラサが小学校の増設と競合して増加しているからだといわれている³⁾。バングラデシュのたいていの農村にはモスクに併設するモクトブおよびマドラサがあり子どもへのコーラン指導や聖職者を輩出する役割がある。また、途中で通常教育制度に乗り換えることも可能であり、たとえば小学校レベルまではマドラサに通い、その後マドラサではない通常の中学校に編入することも制度上可能で、実際にそうしたコースをたどる子どもも少なくない。

ただし、これは政府の財政支援 (主として教員の給料) を受けているアリアマドラサのみで、独自の資金源 (寄付、中東イスラーム組織、中東への出稼ぎ者) で独立採算の運営をしているカリジマドラサでは、発行する修了証 (学位) が公式に通用するものではないのでいったんカリジマドラサに入学すると途中で通常の学校へと鞍替えすることはできない。ということとはつまり入学者は 11 ~ 12 年のカリジマドラサの教育課程を経て聖職者になることがほぼ決まるのである。教育内容についてもアリアでは約 30 % しか宗教的内容を学習しないのに対し、カリジでは約 80 % が宗教的内容となっている。上記二つのマドラサのうち、カリジマドラサが本研究の対象とする事例である。

(図1) バングラデシュの学校教育制度



(出所) 文部省(1998)『諸外国の教育』p.115

※図右の宗教学校の系統(マクタブ～カミル)がマドラサ教育の系統

なぜカリジマドラサか

ではなぜカリジマドラサを取り扱う必要があり、またなぜソイダバッド村を選定したのかをここで述べておこう。

比較教育学におけるバングラデシュマドラサ教育についての詳しい記述は未だ皆無である。存在が認知されているとしてもそれはアリアマドラサのほうである場合が多く、カリジマドラサのもつ独自の運営形態や、カリキュラムが日本で紹介されたことはまだない。またブラフモンバリア県という名前はヒンドゥー教を想起させるし、過去にヒンドゥー教の影響を受けたことも事実であるが、1947年の印パ分離以降この地域に居住していたヒンドゥー教徒のほとんどがインドに移住したこともあり、実際はムスリムがほとんどで復古主義的イスラーム信仰の根強い地域である⁴。Mehdi(1964)によれば18世紀後半イギリスからの行政官 Warren

Hastings によって南アジアにおける最初

のマドラサがカルカタに設立され、その主な目的はムスリムの下級植民地官僚を養成する目的であったと言われている⁵。そうした流れの中にあるベンガル地域のマドラサのうち東部の、チッタゴンやブラフモンバリアのようなイスラームを厳格に守ろうとする地域においては、原点回帰しようとする改革復古主義が興り、よりイスラームの源流に近い中東を意識したようなカリジマドラサがつくられたと考えられる。

そうした中、バングラデシュとして独立後の30年ほどはNGOが大量に流入、また1990年の「万人のための教育(EFA: Education for All)」世界宣言以降、UNESCO、UNICEFなどの国際機関をはじめとし、世俗の公教育普及のため莫大な資金を背景に一般学校教育へのでこ入れをすすめてきた。その結果、バングラデシュでNGOや国際機関からの資金を取り込んだ小・中学校が雨後の竹の子のごとく増加したのが1990年以降である⁶。学校へ行けば小麦や現金を支給するというフード・フォー・エデュケーション政策や、なによりも小学校へ行った後に農外就業やなにかしらの現金収入への道が開かれるかもしれない、という貧困層にとってのメリットは大きかった⁷。しかしもともと貧困層の教育はマドラサが担っていたものであった。なぜなら聖職者という職業は収入がさほど多くはないが堅実で安定的である。さらには子どもを

マドラサへやるとその親は宗教的義務を果たしたことになる天国へ行けると信じられていたし現在でも信じられているのである。ある地域では経済的な理由から自然な流れとしてマドラサから生徒が世俗の小・中学校へと流出してしまい生徒数が激減した例もあった⁸⁾。しかしイスラームの規範を厳格に守ろうとする地域においては完全独立採算のカリジマドラサを支え続けようとし、それどころか逆にコジバ郡内では 1990 年代に入って小学校と競争するかのようになり 30 数校から 60 数校へと一気に倍増したのである。次に村人からの聞き取り調査で分かったことだが、バングラデシュには珍しくこの村に NGO は一つもない。過去にいくつかの NGO がこの地域での活動に挑戦したが全てうまくいわずに撤退したという。高田の述べる通りそれは異教徒であるキリスト教が入ってきたと思われたのではないかと推測される⁹⁾。というのもこの村の位置は首都ダッカから列車で 3 時間、そしてローカルバスで 1 時間ほどの距離にある僻地農村であるがゆえに、未だ外との交流が日常的ではないのである¹⁰⁾。

以上のようにソイダバッド村はイスラーム教育においてきわめて特徴的なものを持っており、その様子を詳述することだけでも比較教育学的に意義があると考えた。

調査概要

筆者はフィールドワークの際には毎回、以下の三つの調査を実施している。

①世帯標本調査

調査対象村の世帯を訪ねて、調査票を用い、家族構成や家庭経済の現状を示すデータ、そして親の子どもに対する希望や世帯員の学歴といった教育を示すデータを収集。および世帯主への教育に関するインタビューを実施。

②学校訪問調査

調査をおこなった各村・地区にある学校（小学校、中学校、高校、カレッジ、マドラサ）を全て訪問し、設立年、生徒数、教師の給料や副業、といった量的データ、および教師へのインタビューによる質的データを収集。

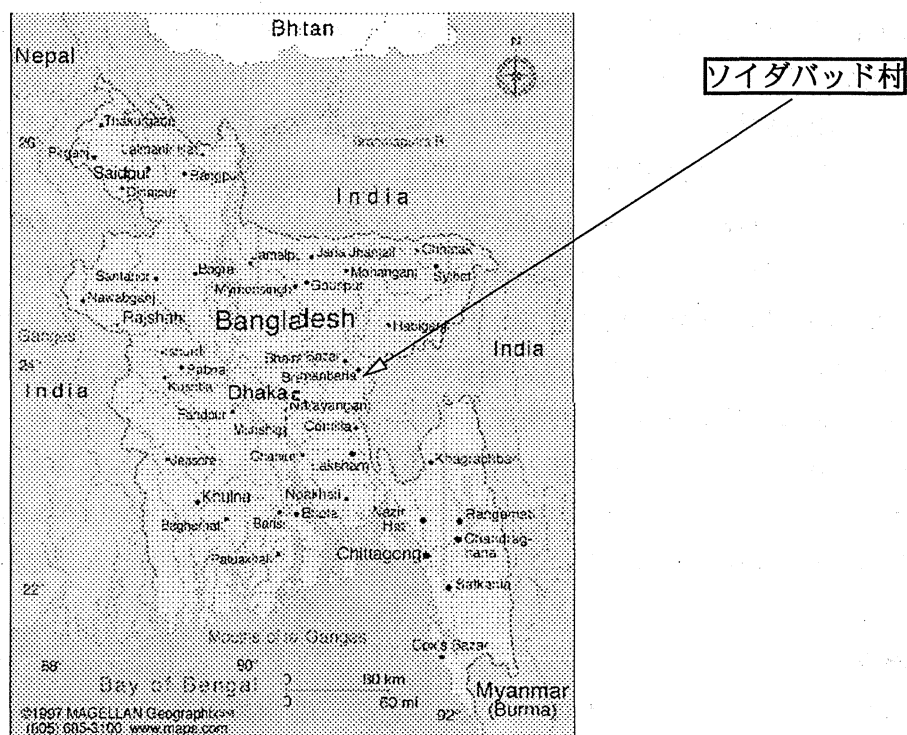
③教育行政機関調査

主に郡役所における資料収集や郡教育担当官への教育に関する現状や問題点のインタビューを実施。

本研究が今回、全面的に依っているのは上記のうちの②学校訪問調査で得たデータの一部である。ソイダバッド村（**地図**）では 2002 年 8 月に二週間程度調査を行っているが、その期間中、多くは①世帯標本調査に割くため、調査活動のメインとして行ったものではなく、日数にして二日間の調査であったことを記しておく。

このソイダバッド村のカリジマドラサを多少、詳しく調べてみようという気になったのは住

(地図) バングラデシュにおけるソイダバッド村の位置



民のマドラサへの就学規範が色濃かったことと、これまでマドラサとしては見たこともないような広大な敷地に大きな二階建てと三階建ての校舎を擁し、芝生と二つの池を所有していることが珍しいと感じたからである。通常、農村ではカレッジ（短大相当）が広大な敷地を持ち、村の中心に据えられることが多い。ソイダバッド村にも 1969 年以來の伝統あるカレッジが存在し、かなり広い敷地を有し施設面だけをみてみればマドラサに匹敵するが、生徒数はカレッジが 1200 名（教師一人あたりの生徒数は 46 人）であるのに対しマドラサは 535 名（教師一人あたりの生徒数は 29 人）であることから、遙かにカレッジのもつスペックを凌いでいるのである。

筆者はこのカリジマドラサに一週間のうち 5 度も調査依頼を行い、調査の意図を十分に説明しなければ理解を得ることは難しかった。過去のバングラデシュフィールドワークの際に世帯調査を断られた経験があるが、学校調査が断られたことはなく、むしろ大歓迎され資料閲覧も断られたことがなかったために、マドラサ校長を中心とする教師たちの評議にかけられ否決されたときはおもわず天を仰いだ。どうやら非公式なマドラサという負い目があり筆者がバングラデシュ政府に報告すると思いこんでおりそのことを快く思わなかったらしい。筆者は「毎日村人たちと話をしているうちにその尊敬を集めるカリジマドラサの調査をする必要がでてきたことが調査依頼のきっかけ」であり、「バングラデシュ政府に報告することではなくカリジマドラサの教育を日本で紹介することが主な目的である」旨を説明し続け、説得のために筆者が前年に調査し、マドラサの写真などを貼付し作成しているフィールドノートを見せて「他地域のマドラサでも調査を許可され何ら不利益は与えていない」と主張してようやく授業見学の許可が下りた。しかし学校内の資料を閲覧することは許されずこちらに関してはこのカリジマド

ラサに多額の寄付をしているカリジマドラサ運営委の一人に仲介してもらい、ようやく許された。2001 年 9 月 11 日のニューヨークで起こった同時多発テロ事件の後であったため、筆者のイスラームに対するまなざしに疑義が呈されたのだと推測している。おそらく筆者がどこかの国際機関から派遣されてきて危険なイスラームの機関を潰すための手先とでも思われたのではないだろうか。パキスタンでも 2001 年よりムシャラフ政権によって「イスラーム模範学校」と称したマドラサが設立され、「時代に即した科目」を導入する試みが行われ、マドラサの近代化が始まった¹¹⁾。そうした情報は当然この村のカリジマドラサもつかんでいたと考えられ、筆者が、いわば聖域を侵す異教徒として映ったとしても不思議ではない。

それでもどうにか調査を許され、二日間という短い日数ではあったが実施することができた。今回収集できたのは、先述した授業見学と学校の基本的なデータ（教師の給料、生徒数など）、カリキュラムの書写であった。本研究は人類学における参与観察調査などによるものではなく二週間程度の調査の中の二日間という、いわば「急ごしらえ」の調査であったことは否めない。さらに詳細にこの村のことを明らかにしようとするれば少なくとも一年ないし二年程度村内に住み、いわばカテゴリカルな成員として認められ、もっと情報量を増やす必要があることを記しておかなければなるまい。では次に具体的にカリジマドラサではどのような教育が行われているのかをみていくことにする。

カリジマドラサのイスラーム教育

概要

1927 年に設立されたソイダバッド村のカリジマドラサは正式名称を Sayedabad Sani Yunusia Jamul Urumu Madrasa という。通常のマドラサ教育課程に加え、コーラン暗唱のみに重点を置いたハフェズ (*hafez*) というコース（年数は決まっておらず、コーランの文言に加え抑揚、発音の全てを覚えたら卒業。平均は 3 年程度）、コーランの基本的なことのみを学ぶヌラニシッカ (*nurani shikkha*) というコース、そして就学前教育（イスラーム幼稚園）であるモクトブ (*maktab*) という計四つのコースが設定されている。教師数は校長もふくめて 18 名、生徒数は通常マドラサ教育課程が 250 名、ハフェズが 45 名、ヌラニシッカが 90 名、モクトブが約 150 名で生徒総在籍者数は 535 名である。給料は校長が 3,750tk（日本円で約 8,200 ～ 8,300 円）、その他の教師たちは 3,200tk（約 7,000 円）、これは政府立小学校のレベルから言えば 60 % 程度であるが、マドラサでは教師たちも寄宿舎に住んでおり食事も共同であることを考えれば決して安い給料ではないといえる。生徒の授業料は無料であるが、年に数回は寄付を募るために村内を回るといふ。

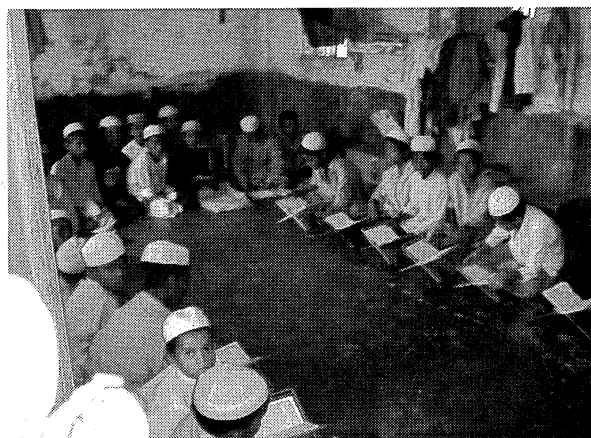
運営の財源は、①村内外からの寄付金（年間約 48,000tk：約 106,000 円）②中東に移住した卒業生からの寄付（年間約 50,000tk：約 110,000 円）③マドラサ所有の二つの池のリース料（年間約 135,000tk：約 297,000 円）④コルバニ・イード¹²⁾（犠牲祭）やロジャ・イード（断食明けの祭）の際に村人から寄せられる牛皮革の換金分（年間約 100,000 ～ 250,000tk：約 220,000 ～ 550,000 円）⑤村内から寄せられる寄付米（マドラサ教師と生徒で消費）というように五つに

分かれており、独立採算でこれだけの財源を確保できるのは村内外から尊敬の念を集めているからこそであろう。ちなみにチッタゴン県のあるマドラサでは教師を中東に派遣し、寄付金を募っていたがここでは現在はやっていない。しかし将来的には考えているという。そうすれば教師たちのハッジ（メッカへの巡礼）も同時に行うことができるからである。

また、マドラサは寄宿制であるが、村内居住者は家庭から通う者が多いため寄宿しているのは 535 名中 240 名（マドラサ教育課程 100 名、ハフェズ 45 名、ヌラニシッカ 90 名）である。日頃は教室で寝泊まりし、午前五時になったらマドラサ併設のモスクからアザーン（礼拝時間を告知するための呼びかけ）が流れ、布団をたたみモスクに礼拝に行く。それから食事をし、6 時半には授業が始まる。当然のことながら一日五回のナマジ（メッカへの礼拝）は欠かさず行われ、近隣の村人もマドラサのモスクで生徒と一緒に礼拝する。



（写真 1）ソイダバッド村のカリジマドラサ



（写真 2）3 年生（ノホム）の授業の様子
（授業はケラット：コーラン暗唱の練習）

カリキュラム

ここではカリジマドラサの通常教育課程に絞って説明していく。他の課程は紙幅の都合もあって掲載できないので後に譲ることにする。

カリキュラムは約 70 % が宗教的な内容であるが、ソイダバッド村では実質は 80 % 以上が宗教的な内容である。国語、数学、英語といった一般科目は 11 年ある教育課程のうち 4 年まで設定されているが、実質は 3 年までで 4 年になるとほとんど実施されないそうである。あとは全て宗教的な内容で、アラビア語、ペルシャ語、ウルドゥー語を習得しながら、かつそれら三つの言葉を教授用語としてコーランの文法、イスラームの歴史、ムスリムの取るべき態度などといった宗教の諸科目を学んでいくというものであった。マドラサ内にアラビア語表記のカリキュラム表があったのでそれを（表 1）にまとめてみた。教室内の掲示やカリキュラム表などはすべてアラビア語で表記されており、授業でもアラビア語を教授用語として多用するため 6 ～ 7 年生になると読み書きならびに会話能力はアラビア語の方が母語であるベンガル語よりも上達するというのが興味深い。（写真 2）に示すように、生徒たちは幼い頃から頭を上下に振りながら一心不乱にコーランを覚えていく。こうした教育を施されバングラデシュのイスラーム聖職者が養成されているのである。

(表1) ソイダバッドカリジマドラサのカリキュラム表

	教科名	現地での呼び名	教科内容
1 年 生 イ ヤ ズ ド ホ ム	コーラン教育	コーラン シッカ	コーランの読み方、覚え方
	イスラームの決まり I・II	タリムル イスラム I・II	イスラームの決まり（六信五行やザ カートなど）
	ウルドゥー語	ウルドゥー カエダ	ウルドゥー語の読み
		ウルドゥー ペヘリ	ウルドゥー語の書き
		ウルドゥー クシコル	ウルドゥー語の習字
	国 語（ベンガル語）	ムスリム シャヒット	ベンガル語の読み書き
	算 数	ムスリム ゴネット	簡単な算数
英 語	エービーシー（ABC）	基本的な英語	
2 年 生 ド ホ ム	コーラン教育	コーラン シッカ	コーランの読み方、覚え方
	ウルドゥー語	タリムル イスラム	ウルドゥー語で学ぶイスラームの決 まり（六信五行やザカートなど）
		アジズル ムフタディ	ウルドゥー語で学ぶアラビア語の基 本
		ヌズハ トウルカリ	ウルドゥー語で学ぶコーランの文法
	ペルシャ語	タイシールル ムフタディ バルシー ペヘリ	ペルシャ語の文法 ペルシャ語の読書
	国 語（ベンガル語）	ムスリム シャヒット	ベンガル語の読み書き
	算 数	ムスリム ゴネット	簡単な計算
英 語	エービーシー（ABC）	基本的な英語	
3 年 生 ノ ホ ム	コーラン暗唱	ケラット	コーランの暗唱を練習する
	アラビア語	バクラトル アラビック サブハトゥル マサデ	アラビア語の文法、文章 アラビア語の言葉の意味
	ペルシャ語	ミザヌワ ムンシャイブ バンデナマ	ペルシャ語で学ぶアラビア語の文法 ペルシャ語で学ぶ詩と物語
	ウルドゥー語	ベヘスティ ガウハル	ウルドゥー語で学ぶムスリムのとる べき態度（天国へ行くために）
		ヌズハ トウルカリ	ウルドゥー語で学ぶ適切なコーラン の読み方
	国 語（ベンガル語）	ムスリム シャヒット	ベンガル語の読み書き
	算 数	ムスリム ゴネット	簡単な計算
英 語	エービーシー（ABC）	基本的な英語	
	コーラン暗唱	ケラット	コーランの暗唱を練習する
	アラビア語	ロウザトゥル アドブ	アラビア語の文法

4 年 生 ハ ス ト ム		ショルハミアテ アメモ	アラビア語の文章作成法
	ペルシャ語	ナハボミル	ペルシャ語で学ぶアラビア語の文法
		パンジャゴンジ	ペルシャ語で学ぶアラビア語の文法 (ナハボ ミルと異なるテキスト)
		マラブッダ ミンフ	ペルシャ語で学ぶムスリムのとるべき態度
		グリスタ	ペルシャ語の詩
	ウルドゥー語	グニイア トウルカリ	ウルドゥー語で学ぶ適切なコーランの読み方
		シラテカテムル アンビア	ムハンマドのライフヒストリー
	国 語 (ベンガル語)	ムスリム シャヒット	ベンガル語の読み書き
5 年 生 ハ フ ト ム	算 数	ムスリム ゴネット	簡単な計算
	英 語	エービーシー (ABC)	基本的な英語
	コーラン暗唱	ケラット	コーランの暗唱を練習する
	アラビア語	ヘダエトウル ナハム	アラビア語の文法
		カルユービ	アラビア語の文法(ヘダエトウル ナハムと異なるテキスト)
		ノルル イジャ	アラビア語で学ぶムスリムのとるべき態度
	ペルシャ語	ヘダヤトウル ティルミス	アラビア語の言葉の意味
		ホスーレ アグボリ	ペルシャ語で学ぶアラビア語の文法
6 年 生 シ ヨ シ ヨ ム	アラビア語	グリスタ	ペルシャ語の詩
		タイスィー ウルマンテック	ウルドゥー語の論理
		ケラファテラシタ	ウルドゥー語で学ぶイスラームの歴史
		ジャマルル コーラン	ウルドゥー語で学ぶコーランの文法
		ケラット	コーランの暗唱を練習する
		カフィア	アラビア語の文法
6 年 生 シ ヨ シ ヨ ム	アラビア語	アルカラトル ワズハ	アラビア語の文法(カフィアと異なる テキスト)
		コドゥリ	アラビア語で学ぶムスリムのとるべき態度
		メルカート	アラビア語の論理
		ナフハトウル イヤマン	アラビア語の読書
		タアリムル ムタリム	アラビア語の読書(ナフハトウル イ ヤマンと異なるテキスト)

	ペルシャ語	ブスタ	ペルシャ語の詩
		エスモス シガ	ペルシャ語で学ぶアラビア語の背景
	ウルドゥー語	ケラファテ グニマイヤ	ウルドゥー語で学ぶイスラムの歴史
7 年 生 パ ン ジ ョ ン	コーラン暗唱	ケラット	コーランの暗唱を練習する
	コーランの読み方	トルジョマトウル コーラ ン	コーランのベンガル語とウルドゥー 語での解説
	アラビア語	カンズッダ カエット	アラビア語で学ぶムスリムのとるべ き態度
		ナファトウル アーロブ	アラビア語の読書
		ショルヘ ジャミ	アラビア語の文法
		ショルヘ タージブ	アラビア語の論理
		ウスル シヤシ	アラビア語の論理(ショルヘ ター ジブと異なるテキスト)
		ドルスル バラガ	アラビア語の話し方、書き方
		アトゥリクル イレルイン シャ	アラビア語の言葉の意味
	ウルドゥー語	ファアアイドル マキ	ウルドゥー語で学ぶ適切なコーラン の読み方
8 年 生 チ ャ ハ ロ ン	コーラン暗唱	ケラット	コーランの暗唱を練習する
	コーランの読み方	トルジョマトウル コーラ ン	コーランのベンガル語とウルドゥー 語での解説
	アラビア語	ショルヘ ベカイヤ	アラビア語で学ぶムスリムのとるべ き態度
		シラジ	アラビア語で学ぶ人が亡くなったと きの遺産配分
		ムクタ サルルマーニ	アラビア語の話し方、書き方
		ノルル アヌアル	アラビア語の論理
		マカーマト	アラビア語の読書
	ウルドゥー語	シラトウル ムストファ	ムハンマドのライフヒストリー
9 年 生 ス ホ ム	コーラン暗唱	ケラット	コーランの暗唱を練習する
	コーランの読み方	トルジョマトウル コーラ ン	コーランのベンガル語とウルドゥー 語での解説
	アラビア語	ヘダイヤ	アラビア語で学ぶムスリムのとるべ き態度
		ノルル アヌアル	アラビア語の論理
		デクニムタ ナッビ	アラビア語の詩
		ムクタ サルルマーニ	アラビア語の話し方、書き方

		ムナザレ ラシダ	アラビア語の読書
	ウルドゥー語	シラトゥル ムストファ	ムハンマドのライフヒストリー
10 年 生 ド ウ オ ム	コーラン暗唱	ケラット	コーランの暗唱を練習する
	アラビア語	ジャラライン	アラビア語で学ぶコーランの意味と解釈
		ヘダイヤ	アラビア語で学ぶムスリムのとるべき態度
		フサミ	アラビア語の論理
		マイブージ	アラビア語の論理(フサミと異なるテキスト)
		デクネ コマサ	アラビア語の詩
		アチーダ トウトハビ	アラビア語で学ぶ善悪の判断
		ハウズル コビル	アラビア語で学ぶコーラン解釈のための解釈方法
11 年 生 ジ ャ マ テ ウ ラ	コーラン暗唱	ケラット	コーランの暗唱を練習する
	アラビア語	メスカット ショリフ	アラビア語で学ぶハディース
		バイジャビ ショリフ	アラビア語で学ぶコーランの意味と解釈
		ヘダイヤ	アラビア語で学ぶムスリムのとるべき態度
		ショルヘ アカイク	アラビア語の読書
		サブウル ムアラカット	アラビア語の読書(ショルヘ アカイクと異なるテキスト)
		タハリク デウボン	デウボン マドラサ(カルカッタにできた初めてのマドラサ)の歴史

(出所) 2002 年 8 月現地調査に基づく

- ※ 1 教科の名前などはマドラサにあったアラビア語表記のカリキュラム表を通訳を介してアラビア語～ベンガル語～英語～日本語に訳して掲載。教科の説明はマドラサ教師に依頼しその場で説明してもらった。
- ※ 2 学年の下に記しているカタカナ表記の言葉はマドラサでの各学年の呼び名。
- ※ 3 本来であれば 12 年生(ダウラ ハディス)があるがソイダバッドにはなく、後ほどできるそうである。

おわりに

本研究の動機はそもそも世帯標本調査からマドラサに関する価値観として「国内他地域の三村と比較すると村人たちのカリジマドラサに対する尊敬の念は高い」ということがわかり、詳細に調査する必要を感じて行おうとしたものであった。冒頭で設定した研究目的である「イスラーム宗教学校マドラサ (*madrasah*) で行われているイスラーム教育を詳述すること」がどれ

だけ果たせたかは分からないが、二日間という限られた日数で集められ得た情報ソースを用いてソイダバッド村のカリジマドラサの描写をおこなった成果としては、わずかではあるものの比較教育学的に意義あるバングラデシュイスラーム教育の記録ができたのではないかと考えている。イスラーム教育に関してカリジマドラサとアリアマドラサと比較するとその内容において相当な落差があり、カリジマドラサはまさしく聖職者養成の専門機関であり、比較的長期にわたってイスラームが厳格ではない西部の農村でフィールドワークをしてきた筆者にとってはこのようなマドラサがバングラデシュに存在していることに驚きを覚え、興味深く調査をさせてもらった。また、イスラーム学に関しては門外漢ということもあって、表に著わしたアラビア語表記などには誤りもあるかもしれない。答えきれない問いもまだ多くあり、多方面からの批判や意見を賜りたい。

付記：本研究は（財）アジア太平洋センター平成 14 年度若手研究者研究活動助成による研究成果の一部である。

*1 日下部達哉「バングラデシュにおける初等教育受容の研究－イスラーム宗教学校マドラサとの関係を軸に」、『比較教育学研究』第 29 巻所収、日本比較教育学会、2003 年、公刊予定のためページ数未定。

*2 Bangladesh Bureau of Educational Information and Statistics (BANBEIS) *Statistical Profile on Education in Bangladesh*, 2002, pp. 49 ~ 51.

*3 高田峰夫「フォトワバジ・NGO・イスラーム－グローバル化時代のバングラデシュ」、『修道法学』第 23 巻 1 号、2000 年、pp.72 ~ 87。

*4 原忠彦（東京外国語大学教授、1990 年ダッカにて没）が調査したチッタゴン県のコヒラ村同様、この村もまた改革復古主義的傾向の強いスンニー派の村である。

*5 Mehdi Nakosteen *History of Islamic Origins of Western Education*, 1964, pp.6 ~ 47.

*6 BANBEIS 前掲、p.40 ~ 42。によれば 1990 年から 2000 年までの増加率は、小学校数が 44.7 %、教師数 43.4 %、生徒数が 46.6 %である。

*7 日下部達哉「バングラデシュ農村部における初等教育制度受容の研究－メヘルプール県ガンニ郡カラムディ村」九州大学大学院院生論文集『飛梅論集』第 2 号 2002 年 pp.139 ~ 143。

*8 日下部 2003 年前掲論文、公刊予定のためページ数未定。

*9 高田前掲論文、pp.74 ~ 75。

*10 近隣に大都市はなく、毎日のように人と物の往来があるわけではない。きわめて狭い範囲の移動である。ダッカに行くとすればそれは出稼ぎとなる。

*11 Inter Press Service News Agency の HP <http://www.ipsnews.net/jp/2003/03/17.html> を参照。

*12 アラビア語で「祭」の意。

Islamic Education in Bangladesh

—Focus on Sayedabad Village, Kasba County, Brahmonbaria District—

Tatsuya KUSAKABE

The purpose of this study is that write an article detailed description about Islam Education in Bangladesh's one village, its named Sayedabad village locate in east side of People's Republic of Bangladesh.

This time picked out area is Brahmonbaria district Kasba county Sayedabad village. This village is located at the east most of Bangladesh and beside of borderline with Tripura state of India. And this area has strictly Islamic culture it is very strongly pro-fundamental Islam forces. And also this village is remote village from urban area. Their school situation also increase trend since EFA policy from 1990. However Islamic Madrasa school is the most authoritative educational institution in Brahmonbaria district. Primary school is increase trend, but also Madrasa increasingly likely to car chase.

In general, Islamic Madrasa schools are divided in two categories. One is Alia Madrasa the other is Kariji Madrasa. The former sponsored from government about recurrent cost etc, but the latter have to manage from own financial sources: 1.Cash contribution from village people, 2.Also cash contribution from graduated students who already migrated out to middle east. 3.Rental revenue from two ponds.

A name of this Islamic Madrasa is Sayedabad Sani Yunusia Jamul Urumu Madrasa since 1927. This Madrasa comprises 18 number of teachers and 535 number of students. There are four courses of Islam education. First, general Islamic education course, second, *Hafez* course for recitation of the Koran, third, *Nurani shikkha* as a basic education for Muslim, fourth, *maktab* as a kindergarten for Muslim. This study has references general Islamic education course. Unexceptionally this Madrasa is free education. Financial resources are mainly swamped with money contribution from many parts, for example graduated students, who live in Middle East, and contributed from inside and outside of Sayedabad village. After Id-festival for Muslim contributed much number of cow skins from village people. 240 students and some teachers live inside of Madrasa.

About 80% of curriculum is Islamic contents. During their student term of 11 years have to learn recitation and grammar of the Koran, the history of Islam and Muhammad, behavior for Muslim through four kinds of languages that are Bangra, Urdu, Persian and Arabic. After graduation, they will become Islamic cleric called *mourana*, *mourobi*, etc.